

保育の技術 (2) 幼児理解

原口 純子

「幼児理解」がよく分からない

幼児の事実に即して、幼児理解ができることは、大切な保育技術です。

しかし、保育の現場には幼児無理解が沢山あります。

お弁当の用意ができてから、長々と待たせておあげをしながら、食事のマナーの指導をしている先生、泣いている幼児にどうして泣いているかをしつ

こくきいて、ついに「泣いていちゃわからないのよね」としかってよけい泣かせている先生等々。

保育は幼児理解に始まり幼児理解につきると言われます。しかし、幼児を理解していると自信を持って言える保育者がどのくらいいるでしょうか。

保育関係の本や教育論文、保育雑誌等あらゆるところに「幼児理解」の重要性は説かれています。

「保育の大前提は幼児理解である」「暖かい関係が幼児理解である」「幼児理解が保育の出発点です」

と言う具合に用いられていますが、「幼児理解」が良く分からない人にとっては、出発点からつまずいてしまうことになります。「暖かい関係が幼児理解です」というのも良く分かっていない人にとっては、すぐには理解しがたい言葉です。「幼児理解」そのものが理解されずに、言葉だけが空回りしているように思われます。

「幼児理解」とはいったい何をすることなのでしょう。か。「理解」を調べてみると、これは中々含蓄の深い言葉です。広辞苑によると、

物事の道理を悟り知ること

1 意味をのみこむこと

物事がわかること 例 文意を理解する

2 人の気持ちや立場がよくわかること

例 理解のある先生

と記されています。

日常生活の中で用いられる「理解」を考えてみると、「算数の足し算を理解する」の理解は足し算の

意味が分かる、やり方が分かることです。

「消費税の値上げについて、国民の理解を得る」という場合の理解は国民が消費税の値上げを納得する、承知する、受け入れる、許容するを意味します。

「夫の釣りの趣味を妻が理解する」という場合の理解はお金を道具や装備にかけ、休日毎に早朝から釣りに出かける夫を容認する、許容する、支援する、心を添わせる、きずなを深める、援助や助力をおしまない、行動を共にする、などであり、飛躍的解釈をすれば愛することなのです。

こうして考えてみると、幼児理解が、幼児の行動について訳が分かる、意味が分かるばかりではなく、むしろ幼児の気持ちや立場がよく分かることであり、心を添わせて受け入れる、きずなを深める、許容する、容認する、支援するなどの意味であることが分かります。究極的には幼児を愛することに通じると思います。

幼児理解の方法

実験や調査統計による理解

測定したり、特定状況を作って実験場面での反応を見て、統計処理を行う理解の仕方。

観察による理解

実験場面では自然な状態が把握できないことから、幼児の行動観察をして動きや言葉や遊びの種類等を客観的に記録し、数的に処理して発達レベルを捕えたり、行動記録の意味を解釈して幼児の心をつらうとする方法です。

観察は保育者が見る、聞く、触れる、嗅ぐ、感じるの五感を働かせて、幼児についての情報を得ることです。保育の場面に遭遇して、保育者が何を感じるかによって、かける言葉も態度もちがってきます。感じ方はそれぞれの主観ですから、観察記録も主観的になります。保育は保育者の主観で成り立つ

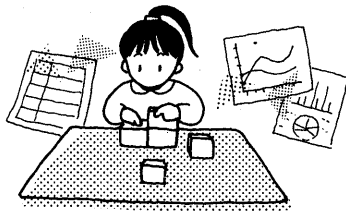
ているのです。観察は大切ですが、記録取りに熱中することには疑問があります。

観察の目は幼児と観察者が対峙することであり、寄り添う目ではないのです。しかし、全体を見通したり、把握する意味で、見て感じる幼児理解も現場では大切です。幼児の動きや興味の対象、仲間関係の育ちなどクラスを経営するものとして、幼児を良く観ることは欠かすことのできないものです。

心を添わせて受容する理解

今日求められている幼児理解こそ、心を添わせて受容する”であり、いわゆる共感的理解なのです。

かなり以前の『幼児の教育』誌の津守真先生の記事のなかに、養護学校のトイレでトイレットペーパーをちぎっては流し、ちぎっては流す子どもにずっと先生が共に居て、流れるペーパーを見ている話がありました。が、読んだ当時、筆者にはこれが何であるのかよく理解できませんでした。が、今、これ



▲調査実験による理解



▲観察による理解



▲共感的理解

カット・佐藤和代

こそ、心を添わせて受容する”幼児理解であったと心啓されました。人を育てる基を見る思いです。観察記録を取っては心を読む先生よりは、一緒にいて幼児の心を感じて、心を添わせてうなずいてくれる先生の方が幼児にはうれしいのではないのでしょうか。

資料や情報による幼児理解

幼児を理解するという場合に客観的な資料や情報も見逃しません。

ごく一般的に幼児理解というと左記のような客観的な状況把握を思い浮かべる保育者は多いのです。

生年月日、家族構成、兄弟関係、保護者の職業、住所、住居、心身の健康、既往歴、性格傾向、興味

関心、好きな遊び、生活習慣の自立、友達関係、もちろんこれらは大切な幼児理解です。

生年月日を教師が頭に容れておくことは、発達理解とつながり、大切なことです。

小学校の校長先生が兼務していた幼稚園に園長として異動した時に、出席簿が五十音順になっていました。筆者は幼稚園の出席簿は是非幼児理解の上からも生年月日順にしたいものと思います。五十音順は保育者が幼児の名前を探すのに便利ですが、幼児の生まれ月を覚えるのには便利ではありません。月齢は幼児理解のたいせつなポイントです。

幼児を取り巻く状況の把握

赤ちゃんが生まれたとか、マンションの三階に住居があり、家だとびはねることをいつも禁止されている等、それぞれの幼児の背負っている家庭の状況は幼児に影響します。園生活だけでは解決のつかない問題もたくさんありますが、幼児を取り巻く状況の把握は幼児理解に欠かせない大切な情報です。

例 妹が生まれた

近頃何かといつては頑固にすねる四歳のA男を、あ先月妹が生まれて母親にかまって貰えず気持ちが充たされないのだと理解しただけでは不十分で、頑固に

自分を主張せざにいられない気持ちに寄り添い、幼児のプライドや自信をもって立ち直ることを援助するところまでが幼児理解なのです。

保育という行為は幼児の事実を見ることによる理解、幼児をとりまく状況の理解、心を添わせて受け入れる理解等実に様々な幼児理解とそれに添った保育者の援助によって成り立っています。



▲資料や情報による理解

幼児理解はカウンセリングマインド

平成五年度より文部省は中堅の教諭を対象に保育技術専門講座を都道府県単位に開設しています。この講座の主な内容としては幼稚園教育に必要な専門性として、カウンセリングマインドの理解と、その姿勢を身に付けることを求めています。

トーマス・ゴードン博士の「親業」も幼児理解を単なる知識としてではなく、訓練により言葉づかひや態度を身に付けることを主張しています。

幼児と生活を共にする保育者はプロフェッショナルな力としてもっともっとカウンセリングマインドを学びたいものです。

発達理解

四歳児の六月頃に庭に白線を描いて「へびじゃんけん」をしている実習生がいました。じゃんけんぽんとは言っているのですが、じゃんけんがよく分

かっていないし、ゲームのルールも理解できていないのですから、ゲームなどになりません。

素話でよく語られる、「アナンシと五」「エパミナダス」(東京子ども図書館「おはなしろうそく」)等も大人はやさしい話として、幼児によく語りますが、幼児には意外にその面白さが理解できないようです。ユーモアとか話の落ちというのは幼児にはむずかしいことが分かります。

保育をする上で、発達理解は欠かすことのできないものです。

四歳の五月にセロハンテープをどのように与えるか、油粘土をどのように幼児に経験させるか、発達理解というのは、実に細々した日常にかかわることなのです。

「子どもの事実」

斎藤喜博(一九一―一九八二)先生の著書(国土社『教師の仕事と技術』)の中にしばしば出てく

る、「子どもの事実」「目の前に動いている事実」という捕え方に大変教えられました。保育の場では「実態の把握」という言い方をします。しかし、この「子どもの事実」という捕え方は、はるかに鋭く「今」を問うています。

まさに、幼児理解というのは、瞬間瞬間目の前に起きる「子どもの事実」に目をそそぎ、心をよせて思いを汲み取ることであり、適切な援助をすることこそ保育なのです。

例 失敗したミニトマト

五歳児のクラスで、植物栽培をする時に、赤い実のなるミニトマトを選びました。「私のトマト」という気持ちで育てさせたいと思い、一人一鉢にしました。素焼きの六号鉢にそれぞれアクリル絵の具で絵をかき、後日小石をいれ、赤玉土を三センチ程いれ、プランター用の混合土をいれ、二ミリに満たないトマトの種を三つずつまきました。テラスにずらりと鉢をならべて待つこと数日、双葉が出てきま

した。幼児は「ぼくのに芽がでた」と大喜びで、登園するとすぐトマトの所に行きせっせと水やりを欠かしませんでした。ところが、何日たっても双葉から本葉がでないのです。そしてついに、次の変化はあろうことか、双葉が黄色くなってきたのです。その年は雨の多い日照の少ない寒い夏だったので。失敗を天気のせいにしたのですが、幼児には、栽培の喜びどころか、種はまいても育たないこともあるという寂しい経験を持たせてしまいました。

なぜ双葉から本葉がでなかったのでしょうか。これは幼児と共に鉢で植物の栽培をする場合の保育者の幼児理解の不足によるのであると後で気づきました。幼児が自分の鉢を大切に育てるということは、毎日欠かさず水をやるという行為なのです。雨の日でも水やりを欠かさない生真面目さ、幼児のこの事実を理解していれば、水をザーザーやっても根腐れを起こさない水はけの良い土作りが必要だったので。翌年は土に腐葉土をまぜ水はけを良くして成功

しました。

幼児の行う行為、ひとつひとつの事実を心をよせて許容したり、援助したりすることが保育の過程なのです。

人形を取り合ってつかみ合いになったA子とB子、駆け回って机の角に足をぶつけて泣いているC夫、ひもごまがまわるようになってうれしさいっぱいのD夫と保育の現場は「幼児の事実」に満ち溢れています。「事実につき事実を作り出す仕事こそ、教師にゆだねられた仕事である」と斎藤喜博先生は述べておられます。事実を見つめず、起きた事実にも気が付かず、ぼんやり過ごす教師のもとでは、幼児の成長は望めないのです。

幼児の保育者理解

本当に幼児を理解するという事は、幼児を愛することなのです。自分に委ねられた愛する幼児のために保育環境を整え、教材を準備します。好奇心に満

ち溢れ、やりたい気持ちいっぱいの子供達の気持ち満足させるだけの準備がなければなりません。

大人が思うよりはるかに、幼児は保育者理解をしています。保育者の立場をかばったり、思いやり、気を使っている幼児がいることに気付かねばなりません。

どうぞ日々の保育が、幼児に失礼のないように、保育者は幼児理解に努めたいものです。

(洗足学園短期大学)